

## M営農組合が目指す タマネギ栽培のしくみづくり

美祢農林事務所農業部

### 美祢管内の栽培作物による 法人タイプ分け

組織数

タイプ	栽培作物	美祢地域	宇部地域
I	水稲＋転作作物 1 種類	3	
II	水稲＋転作作物 2 種類	4	
III	水稲＋転作作物＋露地野菜	6	7
IV	水稲＋転作作物＋露地+施設	3	

\* 転作作物は、麦、大豆、飼料作物、そば

### 地域別の野菜栽培取組状況

地域名	平均品目数	平均栽培面積	1ha以上組織数
美祢地域	1. 7	7 6 a	2 組織
宇部地域	2. 7	1 3 6 a	6 組織

## 美祢管内の法人の野菜栽培の取組状況

品目名	H19		H24	
	野菜品目 取組法人	栽培面積 (a)	野菜品目 取組法人	栽培面積 (a)
タマネギ	2	100	5↑	205↑
ジャガイモ	4	210	9↑	965↑
ニンジン	0	0	2↑	21↑
カボチャ	0	0	5↑	373↑
ブロッコリー	0	0	6↑	385↑
ハクサイ	0	0	8↑	232↑
アスパラガス	0	0	3↑	43↑

## 栽培面積からの法人シェアの推移

作物名	平成19年	平成24年
タマネギ	15%	50%
ジャガイモ	37%	100%
ニンジン	0%	60%
カボチャ	0%	41%
ブロッコリー	0%	28%
アスパラガス	0%	67%
ハクサイ	0%	62%

\* シェア＝法人作付面積の合計／産地全体作付面積×100

◎法人経営における栽培品目の位置づけを  
しっかりすることが重要になる！

農地を維持するための品目

法人への関心や関わりを高めるための品目

利益を出すための品目

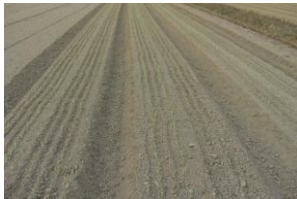
周年雇用体制を実現するための品目

### M営農組合でのタマネギ栽培推進 ～導入するためのポイント～

- 1 機械化一貫体系が可能  
→JAが機械を所有（畝立て機、定植機、  
収穫機）  
→単営事業の活用も可能
- 2 貯蔵ができること＝安定出荷が出来る  
→JAの冷蔵庫活用（2学期にも需要あり）
- 3 販売先があること  
→宇部市は学校給食応援団を設立（H21）

# 1 機械化体系に適合した栽培技術の確立【H23活動】

- 県の栽培マニュアルを活用し基本管理作業の個別講習会を実施（法人・JA・農業部）



JAの畝立て機を借りて畝立て実施したが・・・  
定植機～収穫機までの機械に合っていないことが判明！  
機械作業効率を確認するために、隣のほ場に3畝実施

機械作業に適合した畝形状との作業比較（オペレータの感想）

機械操作が楽！  
作業時間も少ない！  
傷玉も少なかった！



## 【H24活動】

- 定植～収穫まで一連の機械に適した畝形状により作業時間は削減



<10a当たりの作業時間>

	M営農組合 (H24産)	M営農組合 (H23産)	県指標
移植	12.6	10（定植機のみ）	16.7
収穫	5.5	18.5 （収穫機と手作業）	5.1
コンテナ収納・運搬	10.2	45	12.4

スムーズな機械作業により作業時間は県指標どおり！！

## 2 貯蔵体制の確立

### 【H23活動】

。J A 冷蔵庫活用による貯蔵試験実施（入庫量100kg）

● 8月12日に入庫（庫内温度は10℃→2℃）し、月2回M営農組合とJ A、農業部で品質確認

10月25日に出庫。出庫時に宮尾、J A、宇部市、宇部市給食センター、農業部で品質確認

結果：出荷が可能であったのは80%。品質的には問題なかった。

入庫前に腐敗率が高くなったため、次年度は7月入庫し調査



冷蔵庫に入庫前に1500kgが品質悪く出荷不可能となったが、入庫したタマネギは10月末でも8割出荷可能であった

### 【H24活動】

● 7月20日に入庫し、10月29日まで調査

結果：出荷可能な割合は95%

学校給食へ500kg使用。評価は良かった



7月入庫することで、腐敗率が少なくほとんどが出荷可能であった

### 3 販路の確保と販売先に応じた出荷規格

#### 【H23活動】

- 宇部市給食応援団への加入に向けた取組み
  - 給食応援団による出荷目合わせの実施（5月）
  - 学校給食栄養士との交流会開催（6月）
  - 宇部市給食応援団への加入承認（H24. 3月）



#### 【H24活動】

- 宇部市学給食応援団となり出荷規格が簡素化し調製時間が大幅に改善された
  - 通いコンテナによるダンボール箱の経費削減。また値決め流通により安心して生産に取り組める体制が出来た
- <10a当たりの作業時間>



	H24産	H23産	県指標
調製・選別・箱つめ・出荷	73.5	357	84.5

<10a当たりの 経営収支>	販売収入	248,468
	助成金	40,000
	収入計	288,468
	生産経費	172,927
	労務経費	104,210
	経費計	277,137
	収益	11,331

出荷先に応じた出荷規格と冷蔵庫利用による出荷期間の延長により調製時間がかなり短縮、労務費も削減し黒字となった

まとめ

JA

- ・ 機械化一貫体系による作業時間短縮
- ・ 販路の確保（学校給食）
- ・ 出荷先に応じた出荷規格の簡素化
- ・ 冷蔵庫利用により長期安定出荷体制の整備

市

農林事務所

法人が作るタマネギ栽培体制が出来た！  
このしくみなら面積拡大出来る！

## 今後の取り組み

- ・ 農産物の有利販売に向け、これまで試行してきた冷蔵貯蔵を本格実施するための支援活動
- ・ 法人間の連携による計画生産・出荷出来る産地づくり